

XI

看護の普及事業

「看護の日」記念行事・ふれあい看護体験

専務理事 田中 邦代
(公益社団法人香川県看護協会)

毎年5月12日は「看護の日」である。近代看護の祖と呼ばれるフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ1990年に制定された。そして、5月12日を含む週の日曜日から土曜日までを「看護週間」とし、「看護の心をみんなの心に」をメインテーマに厚生労働省と日本看護協会の主催で、さまざまな事業を全国各地で開催している。

当会では、看護週間行事を広く県民に周知するために、新聞を活用してのPRや「看護の日」記念行事、「ふれあい看護体験」などを関係医療機関等の協力を得て毎年実施している。さらに、「ふれあい看護体験」については、体験報告書も合わせて作成し、広報用として活用するなど、あらゆる機会を通して看護の魅力等の周知・徹底に努めている。

この度のコロナ禍においては、記念講演やふれあい看護体験も縮小せざるを得ない状況ではあったが、Zoom等オンラインを活用しての実施等感染防止に配慮しながら事業に取り組んだところである。

そのような中、日本看護協会は「看護の日・看護週間」事業に関する理解や支持を深めるためのメッセージャーとして、2021年度に制作した「看護の日」キャラクター・かんごちゃんのさらなる活用や看護の魅力発信を目的として、47都道府県バージョンを制作した。香川県は、2023年は空海生誕1250年にあたることもあり、空海バージョンで制作を依頼し、様々な機会に全国共通のかんごちゃんと一緒に看護のメッセージャーとして活用している。

看護に求められる役割が変化するなか、看護の新たな発展を模索しつつ、変わらない「看護のこころ」や、看護の明るいイメージが多くの方々へ伝わり、看護への理解や将来看護への道へと希望する学生が一人でも増えることを願って、今後も事業を展開していきたい。

【看護の日記念式典及び講演会の開催】

毎年5月に香川県知事、高松市長のご臨席のもと、記念式典を行い、その後記念講演を開催している。看護職や看護学生、一般住民の方々を対象に、その時期にあった講師を招聘し、看護の心や魅力を広く伝えている。

また、5年ごとに地域における看護功労者や看護協会活動への功労者には、知事感謝状や看護協会長表彰等を行い、看護への貢献者に敬意を表している。

【ふれあい看護体験の実施】

医療機関や訪問看護ステーション等の協力をいただき、主に中・高校生を対象とし、5月から8月の夏休みごろまでの期間で開催している。

【2024年「看護の日・看護週間」記念行事】

日本看護協会は、2021年度から2024年度までの4か年計画で、全国を4地区に分け、「看護の日」のロゴマークをデザインした3台のラッピングバスをそれぞれ運行し「看護の日」事業のPRを企画。最終年となる2024年度は、中国・四国・九州・沖縄地区を巡行し、香川県には5月13日(月)にラッピングバスが到着した。香川県庁でオープニングセレモニーの後、県内の医療機関等を巡行しながら、香川県立高松西高等学校で“看護の出前授業”、四国医療専門学校の看護学生に協力をいただき宇多津北小学校児童の“看護体験”を行った。

行事の参加者からは、「看護の明るいイメージを伝えることができた」児童・生徒からは、「さらに看護師になりたいと思った」「自分の体のことを知る機会になった」などの声が寄せられた。

「看護の日」キャラクター 『かんごちゃん』



かんごちゃん



空海バージョン かんごちゃん



他県のかんごちゃんの一例

各施設でのふれあい看護体験



2024年「看護の日・看護週間」記念行事



ラッピングバスで、「看護の日」のPRのため、いろいろな医療機関等に行きました。

